

白山ブライダルチェック Bコース

妊娠・出産を希望される方や、いつか妊娠・出産をしたいと考えている方などすべての女性を対象とした婦人科検診となります。検査内容は、将来の妊娠や出産に関するものがメインとなっています。また、婦人科系疾患の早期発見にもつながるメリットもあります。自分の身体を知るために大切なメディカルチェックとして検診を受けることをお勧めします。

Bコースの検査内容は、これから妊娠するまでに必要なワクチンやサプリメントを知ることができ、また食生活などの生活改善の必要性なども把握できる内容となっています。

料金： 円(税込)

受診時期：細胞診やおりものを採取する検査があるため、月経中ではない日。

検診日：月・水・木・金(10:00～12:30、15:30～17:30)、土(10:00～12:30)

結果：約2週間ほどお時間がかかります。

【注意事項】

着脱しやすい服装でご来院ください。

妊娠中の方、妊娠の可能性のある方はご受診いただけない場合がございます。

所要時間はクリニックの状況によって、時間がかかる場合がございます。

検査の順番は前後する場合がありますのでご了承ください。

検査項目	検査内容
経膈超音波	子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮内膜症や卵巣嚢腫など子宮や卵巣の病気がないか、また生理周期、排卵周期が順調かなどを調べます。
子宮頸がん検診	子宮頸部のがんや前がん状態(異形成)の有無を調べます。子宮の入り口を柔らかいプラスチック製のブラシや綿棒でこするだけですので通常、痛みはありません。
HPV検査	子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルスに感染していないかの検査をします。感染が確認された場合、精密検査が必要になります。この検査と子宮頸がん検診を併用することによって、子宮頸がんの検診精度が高まります。
淋菌・クラミジア	おりものを採取する検査です。クラミジアは日本人女性に一番多くみられる性感染症です。自覚症状はほとんどないため治療のきっかけがないまま感染が長期化すると、不妊や流産などの原因となることがあります。
乳腺超音波	乳腺超音波検査は、マンモグラフィーのような微細なしこりや石灰化を写すことには適していませんが、乳房の内部構造を観察しながら、触診では検出できない小さな病変を見つけることができます。痛みはなく、X線を使わないので、被爆の可能性はありません。妊娠・授乳中でも検査は可能ですが画像診断が困難となる場合もあるため、妊娠前から検査を受けることをお勧めします。
AMH (抗ミュラー管ホルモン)	卵巣予備能を調べる検査で、卵巣年齢検査ともいわれています。卵巣予備能(卵巣の中に残っている卵子の数の目安)の評価指数とされています。卵子は年齢と共に減少していくため現時点での状態を知ることができます。
TSH (甲状腺ホルモン)	甲状腺疾患の有無を調べる検査です。甲状腺疾患があると生理不順や流産の原因となる場合があります。

HBS (B 型肝炎)	B型肝炎ウイルスの感染を調べる検査です。感染している場合は肝炎から肝硬変など肝臓の病気を発症する可能性があること、また出産時に赤ちゃんへ感染することがあります。
HCV(C 型肝炎)	C型肝炎ウイルスの感染を調べる検査です。母子感染を防ぐためにも欠かせない検査です。現在日本では約100万人程度のHCV感染者がいると考えられています。その中には感染がわかっていない人やわかっていても通院されていない人が多いのが現状です。慢性肝炎、肝硬変、肝がん患
HIV(エイズ)	HIV(エイズ)の感染の有無を調べる検査です。母子感染を防ぐためにも欠かせない検査です。
RPR・TPHA(梅毒)	梅毒はトリポネーマ・パリーダムという微生物による感染症です。最近では潜在的な感染者が増えているといわれています。治療できる感染症です。妊娠時に感染している場合、流産や死産の原因となったり、胎盤を通じて赤ちゃんに感染すると先天梅毒を発症することがあります。
風疹抗体検査	風疹に対する免疫の有無を調べます。風疹抗体価が低いと風疹に感染する危険性があり、妊娠中に感染するとおなかの中の赤ちゃんが先天性風疹症候群(白内障や緑内障、先天性心奇形、感音性難聴)になることがあります。そのため抗体価が低い場合には、妊娠前にワクチン接種をおきましょう。またワクチン接種後は2カ月間の避妊が必要です。
麻疹抗体検査	麻疹に対する免疫の有無を調べます。妊娠中に感染すると流産率が高くなると言われています。催奇形性に関しては否定的です。抗体価が低い場合には、ワクチンの接種をおすすめします。
水痘・帯状疱疹ウイルス	水ぼうそうに対する免疫の有無を調べます。妊娠20週までに感染すると2%が先天性水痘症候群(癩痕性皮膚病変、小眼病、白内障、脳損傷、四肢形成不全等)になると言われています。また、妊娠中期～分娩前2週間に感染すると産後、乳児が帯状疱疹に罹患してしまう可能性があります。抗体価が低い場合には、ワクチンの接種をおすすめします。
トキソプラズマ	トキソプラズマは原虫であり、加熱の不十分な食肉やネコ糞便などを介して感染します。健康な人が感染しても軽度の症状ですむ場合がほとんどですが、妊娠中に初めて感染してしまうと、流産、早産、胎児異常などの重篤な症状を引き起こす可能性があります。現在ワクチンはありません。
パルボウイルス(B19)	りんご病に対する免疫の有無を調べます。妊娠中に感染すると胎児異常(胎児貧血、胎児水腫、あるいは胎児死亡)の可能性があります。ワクチンや治療法が無いため、妊娠中に感染しないことが大切です。抗体がない場合、児童との接触を控えることをおすすめします。同居者に感染者がいる場合は妊婦への感染の危険因子となることがあります。飛沫感染すると考えられているためマスク、手洗いなどの感染予防に努めましょう。
サイトメガロウイルス(CMV)	サイトメガロウイルスに対する免疫の有無を調べます。妊娠中に感染すると、赤ちゃんが難聴等の障害を持って生まれてくる可能性があります。また、流産や早産の原因にもなります。現在ワクチンや治療法が無いため、妊娠中に感染しないことが大切です。このウイルスは乳幼児から感染することが多いため、抗体がない場合は感染予防として乳幼児の尿や唾液との接触を避けることや尿や唾液に触れたときの手洗いの励行に努める必要があります。妊娠中に感染が疑われる場合は、出産後赤ちゃんの感染の有無を検査して早期発見に努める必要があります。母親が感染している・いないに関わらず、0.31%(300人に1人)の先天性CMV感染が確認されたという報告もありました。
葉酸	葉酸はDNA合成に関与する生命維持に重要なビタミンです。妊娠中は葉酸の需要が増大します。特に妊娠初期には胎児の神経管障害の発生リスクを抑える働きがあるといわれています。しかし有効濃度に達するまでには6週間以上かかるという報告もあります(厚生労働省が推奨する400 μ g/日の摂取の場合)。そのため妊娠前からの摂取が必要です。他にも葉酸が欠乏すると、巨赤芽球形貧血を引き起こします。葉酸は体内でつくることができないため、食物やサプリメントから摂取することができます。
ビタミンD	ビタミンDは脂溶性ビタミンの1つです。近年の研究により卵子の数や質に作用するということが、不妊症や不育症との関連性があるという報告があります。ビタミンDは食事やサプリメント、紫外線を浴びることで摂取することができます。カルシウムの吸収を高めて骨を丈夫に保つ働きもあります。
血中脂肪酸分画(AA.EPA.EPA/AA比)	EPA(エイコサペンタエン酸)とAA(アラキドン酸)は体内で生産できない必須脂肪酸です。EPA(エイコサペンタエン酸)は、イワシやサバなどの青魚に多く含まれる脂肪酸のことで、動脈硬化を抑制するなどの働きが確認されています。一方AA(アラキドン酸)は肉や植物油に含まれるリノール酸から体内で合成される、またはレバーなどに含まれる脂肪酸のことで、血栓や炎症を引き起こし、動脈硬化を促進するように働きます。血液中のEPAとAAのバランスのことを「EPA/AA比」といいます。EPA/AA比が高い、つまり血液中にEPA(エイコサペンタエン酸)が豊富な状態であると、動脈硬化が進展するリスクは低くなることが分かってきました。しかし、肉や植物油などの食事が増えると、EPA/AA比が低くなります。すると、動脈硬化が進展し、動脈硬化による様々な病気の危険性が高くなってしまいます。

血液検査